

下部消化管の主な病気と治療

～最適な検査と治療の提案～



下部消化管外科

大熊 誠尚 診療医員

本院の消化管外科は、日本の私学の中で最も古い歴史を誇っています。小腸・大腸から肛門までの様々な疾患に対して、各職種の専門性をいかしたチーム医療を実践しています。

高齢化につれて増えている大腸憩室炎や腹膜炎を起こす可能性のある急性虫垂炎、痔核や痔ろうなどの肛門疾患などに対して、患者さんの負担をできるだけ減らした最適な治療を提供しています。

近年増加傾向にあり高齢者では重症化しやすい大腸憩室炎

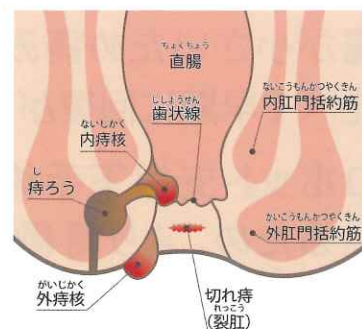


大腸の一部が袋状に膨らんだのが憩室で、通常は無症状です。しかし便などがつまることによって炎症を起こすと発熱や腹痛などが起こり、出血することもあります。重症化した場合は手術が必要となります。

● 憩室とは大腸の壁が袋状に外に飛び出したもの。外に飛び出た憩室には便が溜まりやすく、細菌が増殖し感染を起こした状態が大腸憩室炎。上行結腸とS状結腸に憩室がしやすい。

日本人の痔核・痔ろう・裂肛などの患者数は人口の約28%、約3000万人と推計されていますが、受診していない患者さんも相当数いると考えられています。

当診療科はできるだけ患者さんの負担を減らし、羞恥心などにも配慮を心がけ診療を実践しています。



【痔ができる場所】



JIKEI VIDEOS

動画概要

下部消化管の主な病気と治療～最適な検査と治療の提案～

下部消化管外科 大熊 誠尚 診療医員

詳細については、QRコードを読み取り動画をご視聴ください。



YouTube